愛媛大学アジア古代産業考古学研究センター第２９回アジア歴史講演会

# 遺 跡 を 測 る

## -デジタル技術で調べるモンゴル仏教遺跡を中心に-

### 講師：正司哲朗（奈良大学）

近年、様々なデジタル技術が開発され、考古学分野でも利活用されています。講師の正司哲朗氏は、これまで様々なデジタル技術を駆使しながら、国内外の遺跡を「測って」こられました。今回の歴史講演会では、そのなかからモンゴル国にあるウイグル時代の都市遺跡ハル・バルガス、契丹（遼）の土城や仏塔、17 世紀から 18 世紀のモンゴル仏教寺院の調査成果を披露していただきます。また、どのようなデジタル技術を用いたのか、その原理や特徴についてもご紹介いただきます。

なお、Youtube のオンライン配信にて開催いたします。

8 世紀のウイグル可汗国時代のハル･バルガス城跡の土塔

ドローンを用いた空撮測量

3 次元計測機を用いた計測

17 世紀のモンゴル･サリダグ寺院の 3 次元計測結果

**2021年12月1日（水）10:00～7日（火）16:00まで**

**YouTube オンライン配信**　YouTube でアジア歴史講演会と検索いただくか、https://youtu.be/IuNTB6ybOi4 を直接打ち込むか、してください。登録や申込みは不要で、どなたでもご覧になれます。

【講師紹介】正司哲朗氏　奈良大学社会学部教授。博士（工学）。1974 年生。2003 年、龍谷大学大学院理工学研究科修了。龍谷大学古典籍デジタルアーカイブ研究センター博士研究員、京都大学学術情報メディアセンター博士研究員、同大学院情報学研究科特定助教を経て、2008 年から奈良大学社会学部講師、2021 年から現職。専門は情報工学。モンゴルや国内各地で、デジタル技術を用いた遺跡や歴史資料のアーカイブとその技術開発に取り組んでいる。


**愛媛大学アジア古代産業考古学研究センター**

〒790-8577　松山市文京町 3 番　HP: http://www.ccr.ehime-u.ac.jp/aic/

Email: kotetsuAIC@gmail.com